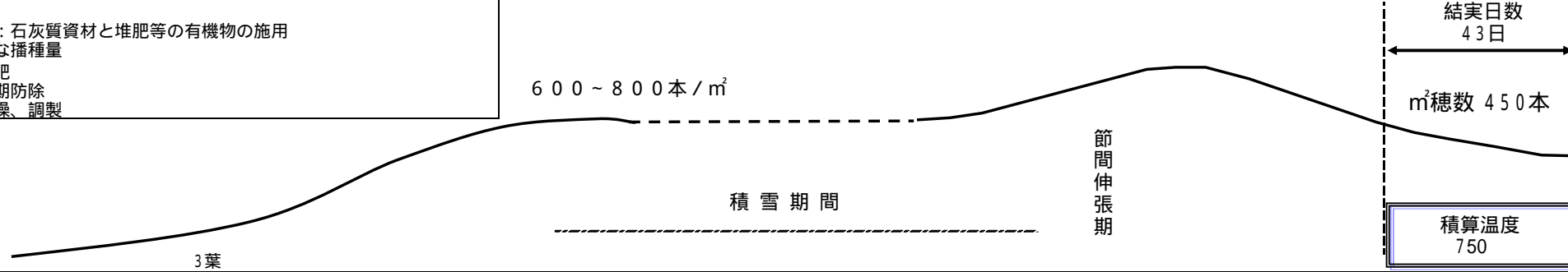
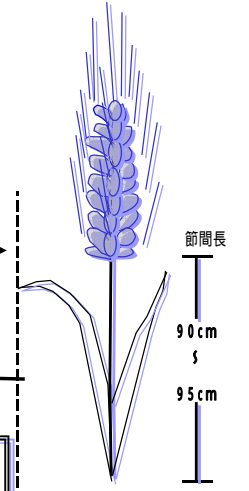


大麦栽培こよみ

高品質400kgどり収量構成要素		品質目標
m ² 当穂数	450本(苗立数150本×1株穂数3本)	容積重 690g/粒以上
1穂収量	1.05g(1穂粒数30粒×千粒重35g)	細麦率 2.2mm(篩)下に2.0%以下
栽培のポイント		白度 43以上
排水対策の徹底		硝子率 40%以下
土づくりの実践：石灰質資材と堆肥等の有機物の施用		
適期播種と適正な播種量		
生育に応じた追肥		
赤かび病等の適期防除		
適正な収穫、乾燥、調製		



大麦の生育

月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
生育		発芽	分けつ期			幼穂形成期		出穂期		成熟期

作業名	額縁排水溝設置 土壌改良資材等施用 種子の準備 ⑤第1回追肥 (は種1か月後) 排水溝の手直し ⑤第2回追肥 (融雪水の排水) 排水溝の手直し ⑤第3回追肥 (茎数不足の場合) 茎立期追肥 (止葉展開期・出穂の12日前) 赤かび病防除①(穂揃期) 赤かび病防除②(1回目から7日後)	収穫 (刈り取り)
-----	---	--------------

排水対策

- ・稲刈り後、早急に額縁排水と基幹排水溝を設置する
- ・透水性の悪い場合は、心土破砕を行う

種子の準備

播種期	目標苗立数(本/m ²)	表面散播	ドリル播
9月6半旬	140	6.5	6.0
10月上旬	150	7.0	6.5
10月下旬	200	9.0	8.5

種子消毒の方法

風呂湯浸法	42度の風呂湯に10時間浸漬し、自然に温度を下げる
循環式催芽器	45度の湯湯に入れ、2.5時間浸漬する(時間厳守)
薬剤粉衣	ベンレート水和剤20の乾燥種子重量の0.5%粉衣 種子10kgに50gの薬剤を入れ、水200ml加用して混和する

耕起・作溝・は種

- ・ほ場の乾いたときに、上記の1連作業を1日で完了する
- ・は種適期は10月上旬、遅くとも10月中旬までに播き終える。
- ・高畦ドリル播の徹底

排水溝の手直し

- ・排水対策は、大麦栽培の”かなめ”
- ・11月下旬の降雪前、2月下旬の融雪期の他生育期間中に随時、排水溝の手直しを行う

施肥

施肥	時期	N施用量(kg/10a)
基肥	播種時	5~6
年内追肥	播種1ヶ月後(11月上旬)	4
消雪後追肥	消雪直後(2月下旬)	3~4
止葉展開期追肥	出穂12日前頃(4月上旬)	2

赤かび病の防除

- ・赤かび粒の混入限度は0.0%
- ・ほ場で発生が認められないように、2回の防除を徹底する。
- ・薬剤散布に際しては、風の弱い時間帯を選ぶなど、周辺作物への飛散防止に努める。

防除時期	薬剤名	散布濃度	散布量(l/10a)
1回目	トップジンM水和剤	1000倍	150 ^{1/2} l
(穂揃期)	トップジンM粉剤		4kg/10a
(無人ヘリ)	トリフミン水和剤	1000倍	150l
(無人ヘリ)	トップジンMゾル	4倍	0.8l
2回目	トリフミン水和剤	1000倍	150l
(無人ヘリ)	チルト乳剤25	1000倍	150l
(無人ヘリ)	チルト乳剤25	8倍	0.8l

・トップジンM剤は、収穫14日前まで、出穂期以降は1回以内の使用である。

収穫

- ・穂軸、茎葉が完全に黄化し、子実水分30%の時期が刈取時期
- ・出穂後40~45日頃

刈取期の目安

子実水分 30%

ツメで押さえてもつぶれない

ツメで押さえると二つに割れる 35~40%

穂軸、茎葉が完全に黄化し、粒の大部分がツメで押さえてもつぶれない

乾燥

- ・通風乾燥機の送風温度は粉より5度高くし、毎時乾減率1.0%以内の乾燥速度で仕上げ水分13.0%とする。

選別

- ・ライスグレーダーの網目は2.3ミリで容積重の高い麦に仕上げる。

土壌改良資材施用

- ・pH6.0を目標に、石灰質資材を耕起前に施用する

	肥料名	施用量(10a当)
石灰質資材	苦土石灰	100~200kg
堆肥	牛豚ふん堆肥	1~2t
	発酵鶏ふん	100~200kg

栽培管理のポイント